

鶴ヶ島市都市農業振興計画 目標指数との比較（令和4年度末時点）

資料2

指標名称	計画策定時 (令和元年度)	計画策定1年目 (令和2年度)	計画策定2年目 (令和3年度)	計画策定3年目 (令和4年度)	比較 (R3・R4)	現状・対策等	中間値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
認定農業者数	16経営体	16経営体	17経営体	18経営体	5.5%	(増)新規認定(黒岩一太)	25経営体	30経営体
新規就農者数(※支援を行った数。就農離脱(4名)含む)	14人	16人	16人	18人		明日の担い手育成塾生2名が卒業し、1名は認定新規就農者として認定。	18人	23人
企業参入件数	3件	7件	7件	8件	12.5%	(増)ねぎらい (既)大尽ファーム、こすもす作業所、カウベル、みゆきファーム、莓の里、あゆみ福祉会、加藤牧場	5件	8件
農業法人化件数	1団体	1団体	3団体	3団体		(株)長峰園、大尽ファーム株式会社、株式会社みゆきファーム	2団体	3団体
アグリサポート登録者数	—	—	2人	2人		(受入農家3件)中島養鶏場、比留間園芸、高篠聡(認定農業者)→市HPに掲載中	20人	40人
特別栽培農産物件数	11件	11件	10件	10件		茶7件、ブルーベリー3件	20件	30件
S-GAP認証取得件数	2件	2件	3件	4件	25.0%	(新)カウベル (既)長峰園、須藤園、大宝園 「埼玉県農業生産安全確認運動」のPR(市HP等)実施中	6件	10件
ブランド農産物作付面積(ごぼう、ねぎ、里芋)	—	—	—	—		川越農林振興センターとの連携等により品目を検討中 ごぼう：収穫・下処理が困難。生産者が少ない。 里芋：井戸の確保等投資額が大きい。選果場への出荷実績あり。品質が高いと好評。 ねぎ：栽培が容易。年間を通して栽培可能。下処理が容易。採算性が高い。	800a	1,000a
ブランド農産物取扱飲食店舗数	—	—	—	—		品目の選定、栽培が実現化したのちに、店舗への交渉を開始する	20店舗	40店舗
鶴ヶ島産農産物加工品数	—	—	—	—		品目の選定、栽培が実現化したのちに、加工品の検討を開始する	5品目	8品目
摘み取り観光農園開設数	3農園	3農園	4農園	4農園		比留間農園(いちご)、青い星印(ブルーベリー)、カウベル(いちご) (増)沼倉農園(さつまいも) 観光農園協会のキウイフルーツが現在収穫にむけて栽培中	6農園	10農園
学校給食における地場農産物使用割合	10.1%	9.6%	13.0%	17.1%	23.4%	つるがしま観光農園協会のさつまいも搬入 学校給食センター、JAいるま野(直売所)との連携により使用割合の増加に努めた。	16.0%	20.0%
保育園、幼稚園等への地場農産物の出荷件数	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所		つるがしまゆうきの会：市内保育所(鶴ヶ島・富士見)、上広谷幼稚園	4箇所	4箇所
企業への地場農産物の提供	1企業	1企業	0企業	0企業		新たな企業の発掘に努める。	3企業	4企業
農地中間管理事業による農地集積面積	3.0ha	6.0ha	6.0ha	6.0ha		高倉地区の圃場(小麦・大豆)の拡張(いるま野アグリ)	6.0ha	8.0ha
農用地利用権設定面積	12.0ha	25.9ha	29.5ha	26.2ha	▲11.2%	(仮)SAITAMAロボティクスセンター開発事業に伴う農地の移転が大きな要因。 貸し希望農地の把握等による農地活用に努める	16.0ha	20.0ha
人・農地プラン策定地区数	1地区	1地区	3地区	3地区		令和3年度3地区の実質化。 今後、各地区の実情にあった地域計画の策定を農業委員会との連携により進める。	3地区	4地区
市民農園開設数	2農園	2農園	2農園	2農園		内野農園、杉下農園 貸し希望農地の把握等により検討を進める	4農園	6農園
多面的機能支払交付金取組団体数	1団体	1団体	1団体	1団体		高倉ふるさとづくりの会が取組んでいる。他地域の要望団体の把握に努める	2団体	3団体
学校ファーム設置数	9校	9校	12校	8校	▲33.3%	5校(新町小、杉下小、栄小、南小、鶴中)が未設置。農業を通じた児童生徒に対する食育や情操教育の充実を図る事業であることを校長会等でのPRに努める。	13校	13校
地域との協働、市民参加による地域資源を活用した事業の開催	6回	3回	3回	2回	▲33.3%	菜の花まつり鯉のぼり設営、竹林整備(環境ボランティア団体受入れ) 昨年度は、飯盛川の草刈りに環境ボランティア団体を受入れたが、日程調整がつかず地元市民だけで対応したため、回数が減となった。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止(キャンドルナイト、生き物探し隊、農福マルシェ、高倉ふるさとまつり) 農業交流センターとの連携により事業拡大を図る。	8回	10回